

令和5年度第1回西予市総合教育会議 会議録

1 開催した日時及び場所

令和5年10月24日(火)午後3時30分から午後4時43分まで  
西予市教育保健センター 4階 大ホール

2 出席した構成員

西予市長	管 家 一 夫
西予市教育委員会	
教育長	松 川 伸 二
教育委員	梅 川 俊 一
教育委員	木 下 弘 規
教育委員	酒 井 史 朗
教育委員	兵 頭 美 和

3 会議に出席した職員

(市長部局)

政策推進課長	原井川 英 一
総務課長補佐	佐 藤 陽一郎
危機管理課係長	井 上 一 善

(教育委員会事務局)

教育総務課長	山 崎 徳 博
学校教育課長	青 木 志 郎
まなび推進課長	大 崎 伸 一
教育総務課長補佐	土 居 靖 史
学校教育課長補佐	榎 田 寿美子
まなび推進課長補佐	木 崎 真 近
まなび推進課長補佐	高 木 邦 宏

4 傍聴者

0名

5 協議事項

(1) 高校魅力化について



山崎課長  
松川教育長

につきまして、活発な意見交換ができる場になりますよう、  
よろしくお願ひ申し上げ、開会のご挨拶といたします。  
続きまして、松川教育長があいさつを申し上げます。  
教育委員会を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。  
管家市長におかれましては、お忙しい日程を割いていただ  
いての総合教育会議の開催、誠にありがとうございます。  
また、日頃より当市教育行政の推進に関しまして、格別のご  
理解、ご支援いただいておりますこと、重ねて厚くお礼申  
上げます。  
令和5年度に入り、3年余りの間、本当に悩ましい日々が  
続くこととなりました新型コロナウイルス感染症も、5月の感染法上  
の5類への移行後は、学校現場におきましても落ち着きを取り  
戻しているという現状であります。  
3年余りの間、翻弄された日々ではありましたが、それま  
での学校行事を改めて考えさせられ、見直しを図るなどの機  
会でもあったかと思っているところであります。  
一方では9月に入ってから、今度はインフルエンザの流  
行を心配している状況下であります。  
さて、この総合教育会議は、市長と教育委員会が一堂に会  
して本市の教育行政の諸課題を共有し、協議・調整する大変  
重要な会議と認識しております。  
現在、当市の教育行政におきましては、不登校問題、教職  
員の働き方改革、中学校部活動の地域移行、そして市内高校  
の魅力化、学校施設等の老朽化、更にはGIGAスクールにおけ  
る一人1台端末の更新やコミュニティスクールと地域学校協  
働活動の取り組み等々、種々の課題が山積しているところ  
であります。  
本日は、その中でも不登校対策等三つの事項について協議  
することとなっておりますが、いずれの事項におきましても  
市と教育委員会が連携を密にし、一つになって取り組まなけ  
ればならない重要な事項であると認識しているところであり  
ます。  
この会議において協議させていただくことによりまして、  
より連携が図られ、スピード感をもった的確に取り組んでい  
くことができると考えています。  
どうか忌憚のない意見を交わさせていただき、西予市の教

	<p>育行政の更なる進展が図られるようお願い申し上げまして、私からのご挨拶とさせていただきます。</p> <p>本日は、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
山崎課長	<p>協議事項に入ります前に配布しております資料について、説明をさせていただきます。</p>
	<p>(資料について説明)</p> <p>それでは、協議事項に移らせていただきます。</p> <p>ここからの進行は、西予市総合教育会議運営要綱第4条第1項により、管家市長をお願いいたします。</p>
管家市長	<p>本会議を主催する立場から進行を務めさせていただきます。</p> <p>まず、協議事項(1)高校魅力化についての協議をしたいと思います。教育委員の皆様からのご意見をお願いしたいと思います。</p>
梅川委員	<p>私は城川町川津南に在住で、娘は野村高校に進学しています。城川から野村高校へ通学する場合、通学時間帯のバス便が不便なのが一つの課題となっています。出発が城川支所前となることから、保護者の送迎が必要となり、結局のところ野村高校まで毎日送迎しています。だからと言って、通学便を充実させたり、細部まで行き渡らせることが現実的ではないことも理解しています。</p> <p>一方で、近年、新聞やニュースで高校存続のための各自治体の取組が取り上げられています。先日は長浜高校が生徒確保のために、空き家を改修してシェアハウスの整備や各種支援策を準備していることを耳にしました。</p> <p>県外から生徒を呼び込むにしろ、市内における公共交通空白地帯の生徒を確保するにしても、その住まいとなる住環境を充実させることも高校魅力化の一つではないでしょうか。野村町内に安心して暮らせるシェアハウスなどがあれば、私の娘も住まわせていいかなと考えています。</p> <p>西予市においても生徒数の減少により、市内の生徒だけでは地元高校の存続が困難な時代が近く訪れるだろうと考えます。</p> <p>市内高校存続のためには市外生徒を呼び込む努力と、市内生徒を確保する手段の両輪が必要であると思います。しかし</p>

管家市長

ながら現状では住環境が整っているとはいいいがたいです。

その対策として、市として出来ることはないか、お聞かせいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

市内において、出生数の低下に歯止めがとまらず、少子化が進んでおります。

9月定例議会の一般質問でも回答させていただきましたが、昨年度生まれた子供が、中学校に入学する令和17年度における各中学校の生徒数はといいますと、明浜中学校が現在の32人から31人に、宇和中学校が464人から328人に、野村中学校が149人から65人に、城川中学校が37人から27人に、三瓶中学校が111人から33人に、全体で現在の793人の生徒数が484人になるという状況でございます。

更に高校となりますと、市内外の多様な高校を選択することになります。近年の市内中学生の市内高校への進学率は50%を割り込む状況ですので、地元高校を存続することが大変厳しい時代が、そう遠くない時期に迫っていることを懸念しております。

西予市では、令和2年度に西予市県立高等学校魅力化推進協議会を設置し、これまで市内3校の魅力化について議論を重ねてきました。主には生徒の学習面を支援する公営塾を開塾し、野村高校に「あやぐも塾」と三瓶分校に「C-LAB(シーラボ)」を設置して、各校の魅力化づくりに努めてきたところです。また、野村高校では地域みらい留学制度を活用して、全国募集にも取り組んでこられました。

ただ、そのような努力はしてきたものの、三瓶分校は令和5年度から募集停止となり、令和6年度末をもって閉校となります。また令和5年3月に示された、県立高等学校振興計画には、宇和高校・野村高校の2校につきましては、令和9年度までの前期計画期間では存続が確保されておりますが、その後生徒数が減り続けることになれば、八幡浜管内において、更に1校減ることの含みを持たせている内容です。

市としましても2校が存続するよう市内高校の魅力化づくりを支援していく必要があると考えております。

それら踏まえた上で、委員がご指摘された住環境の整備については、野村高校の特に女子生徒の住まいの整備の遅れが市外生徒を受け入れる上では大きな課題であることは認識し

<p>管家市長 兵頭委員</p> <p>管家市長</p>	<p>ています。</p> <p>ただ議論すべき事項も多くあり、例えば、何を魅力として外部生徒を受け入れるのかという高校側の明確な方針、受け入れ生徒数の概数、住まいの形、寮なのか、下宿なのか、あるいは空き家を改修してのシェアハウス、または里親制度、といったようにその手段にも選択があります。そして、これを整備した場合の運営主体は、高校なのか、市が行うのか、保護者で運営するものなのか、地域の協力で対応できるものなのか、更には寮母や管理人、もろもろのランニングコストはどこが負担すべきなのか、というような調整が必要となります。</p> <p>このあたりの不確定要素を議論したうえでの整備になると考えており、その必要性や方向性について、まずは近日中に地域や同窓会関係者で話し合う機会を持つ予定としております。</p> <p>その他、この件についてご意見ありませんでしょうか。</p> <p>地域みらい留学制度を活用して、全国へ募集も取り組んできたと説明がありましたが、どのような取り組みなのか、お聞かせいただきたいと思います。よろしくお願いします。</p> <p>地域みらい留学制度は、都市部の中学生に対し、地方の高校への進学を選択する機会をつくりだすもので、去年は愛媛県内では7校が参画しており、西予市では野村高校が参加して生徒の確保に努めていただきました。</p> <p>当事業は「一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム」が事業を実施しておりますが、全国で地域みらい留学を希望する中学3年生が会員登録をし、自分が進学したい学校を選び、オンラインや現地開催のオープンスクールに参加するなどして、入学までをサポートする事業です。</p> <p>この制度を通じて入学した生徒は、令和4年度野村高校では2人となっております。</p> <p>県内唯一で全国でも8校しかない畜産科に興味を示し入学を希望する生徒は多く、地域みらい留学への参画は野村高校生徒を確保する生命線ともなっています。ただ、先ほどの質問があったように、興味はあるものの実際現地で住まいを見学すると、他校との比較により、入学にまで至らないケースが多いと聞いております。</p>
----------------------------------	---

<p>管家市長 梅川委員</p>	<p>その他、この件についてご意見ありませんでしょうか。</p> <p>住環境が整備されているのであれば、野村高校に進学する生徒も多くなるし、私の子どもも下宿やシェアハウスに住ませることで、親の負担軽減にもなります。ぜひ進めていただきたいと思います。</p> <p>地域みらい留学制度を利用して市外から進学される場合、全く知り合いもない地域に進学するということが、不安な面もあるかと思えます。そういうことで考えますと例えば家族や保護者と一定期間住めるシェアハウスなどの手法もあるのではと思います。そういった受け入れが可能な住環境を整えることも高校魅力化の一つではないかと思えます。</p> <p>私は野村高校の卒業生ですが、先ほど説明があったように野村高校の魅力の一つは、畜産科だと思います。今の生徒の中には農業、畜産業、酪農家を含めてですけれども、家業を継ぐために進学している生徒が在籍していると考えます。</p> <p>もう少し、生徒の将来性に幅を持たせるためにも、農業畜産全般を学べる学校として充実させることができないだろうかと思えます。獣医系の大学と連携するとか、動物園との連携により様々な分野を学べる環境の領域を拡大できないものだろうかとも思えます。この点について市長のお考えを聞かせたいと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>管家市長</p>	<p>野村高校においても畜産科があることが一つの強みであることを踏まえ、いろいろと検討をされていると聞いています。例えば、最近いただいた情報では「どうぶつえん部開園プロジェクト」という取り組みを検討されており、畜産科に限らず、普通科の生徒も含め、普段から動物と触れ合える環境整備の提案をされているとのことでもあります。そのような動物と触れ合える日常やアニマルセラピーによる和やかな高校であるということが注目されることによって高校の魅力化につながっていくことを期待するところであります。</p> <p>また、現在、岡山理科大学獣医学部との連携を行っており、出前講義に来ていただいたり、畜産科生徒の大学訪問を毎年実施しているところであります。</p> <p>このような活動の成果の一つとして進学の実選択肢の広がりがあるのではないかと認識しておりますので、行政としてサポートしていく必要があると考えているところです。</p>

梅川委員	<p>様々な施策、またお考えありがとうございます。野村高校の一つの魅力は畜産科ということですが、畜産科、普通科の垣根を越えて、野村高校としての学校魅力化を進めていただきますようよろしくお願いいたしますと思います。</p>
教育長	<p>今ほど市長から回答いただきました岡山理科大学獣医学部との連携ですが、学校訪問や出前講座などにおける取組や交流によって、令和2年度及び3年度において岡山理科大学獣医看護学科への進学実績があるようであります。</p>
管家市長 全構成員 管家市長	<p>その他、この件についてご意見はありませんでしょうか。          (特になし)</p>
酒井委員	<p>それでは、協議事項「(2)不登校対策の現状及び今後の取組みについて」に移りたいと思います。教育委員の皆様からのご意見をお願いしたいと思います。</p>
酒井委員	<p>10月に入り中学校の新人体育大会、小学校の陸上記録会と、西予市内の児童生徒がスポーツに一生懸命取り組む姿に接することができました。また、明日の西予市教育研究大会には、私たち教育委員も各会場校に分かれ授業参観をいたします。真剣に学習に取り組む児童生徒の姿を見られることを大変楽しみにしております。</p>
酒井委員	<p>このように、将来の西予市を担う子どもたちが、スポーツに勉強にと、生き生きと活動する姿は、いつ何度見てもうれしいものです。</p>
酒井委員	<p>しかし、その一方で学校生活や家庭生活に悩みや不安を感じ、学校に通うことができていない児童生徒が存在することも忘れてはならないと思っています。</p>
酒井委員	<p>先日、文部科学省は2022年度問題行動・不登校調査の結果を発表しました。その中で30日以上欠席の不登校児童生徒は全国で約29万9千人と過去最多を大きく更新したとのことでした。少子化が進む中で続くこの増加傾向は、現在はもちろん将来にわたっての大きな課題であることは間違いありません。</p>
酒井委員	<p>そこでお尋ねします。西予市の不登校対策の現状と今後の推進について市長の考えをお聞かせください。</p>
管家市長	<p>不登校児童生徒数は、先ほど委員が述べられた通り、全国的に増加傾向であり、西予市においても2022年度調査において小学生13名、中学生47名を不登校児童生徒数として報告</p>



酒井委員	<p>しております。</p> <p>中学校においては、令和3年度と比較して15名増加となっております。しかしながらこの数字は氷山の一角であると捉えております。欠席が30日に満たない者の不登校の傾向が見られる者、登校しぶりを繰り返す者、別室での登校を行っている者を含めるとさらに深刻な状況であると認識しております。</p> <p>こうした不登校への対策ですが、不登校の要因は様々であり、その要因の中には、障がい等の特性により教室不適應になる場合や、学習に対する困り感が高まり、自己肯定感が低下することで、不登校傾向に陥る場合もあると考えられます。また思春期特有の友人関係のトラブル、家族や教師との人間関係なども要因の一つとなっております。</p> <p>こうした様々な要因を踏まえて、不登校対策のまず第一は、「不登校児童生徒を生まない、魅力ある学校づくり」だと考えます。例えば、生活支援員の配置や一人1台端末による個に応じた支援を充実させることにより、児童生徒に適切な学びの場を提供するなどして、児童生徒の自己肯定感を高めること、あるいは学校運営協議会や地域づくり活動センター等と連携した地域と一体となった魅力ある学校づくりを今、市内で進めています。</p> <p>さらに、児童生徒の思いや悩みを受け止めるための教育相談の充実、早期対応を行うための体制づくりを行う必要があると思います。</p> <p>その対策として不登校対策非常勤講師、ハート何でも相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど、各種相談事業を充実させ、児童生徒や保護者の悩みが解消されるよう取り組んでいるところです。</p> <p>市長の不登校対策に対するご理解に感謝を申し上げます。</p> <p>不登校の問題は非常に難しく、先ほど市長が述べられたように、その要因も多種多様で、児童生徒への対応も複雑になっています。また、社会情勢や学習の多様化、保護者や地域住民の不登校への意識の変化など、不登校を取り巻く状況は大きく変化しています。</p> <p>私は不登校対策には、次の3点が今重要だと考えています。まず1点目は、不登校児童生徒の多様な居場所づくりです。</p>
------	---

管家市長

児童生徒の実態やニーズに合わせた、所属する学級だけにとらわれない居場所づくりが必要であると考えます。

2点目は不登校児童生徒の学びの場の保障です。

学校ではICTを活用した学習が進み、コロナ禍においてもリモートでの学習など、多様な学習方法が確立されつつあります。児童生徒をだれ一人取り残さない学校づくり、さらには進路保障という観点からも、不登校児童生徒の学びの場を保障していく必要があると考えます。

そして3点目は、不登校児童生徒の保護者への支援です。

不登校児童生徒の保護者の中には、誰にも相談できずにいる保護者もおられ、不安感や困り感はもとより、社会からの疎外感や孤独感を持たれている保護者もおられるのではないかと思います。そのような保護者に寄り添い、子育てへの不安やストレスを解消していく必要があると考えます。

そこでお尋ねします。以上3点のことを踏まえた不登校対策と今後の展望についての考えをお聞かせください。

国は今年4月に「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」通称「COCOLOプラン」を発表しました。

その中で、不登校により学びにアクセスできない子供たちをゼロにすることを目指し、「不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える」ということを取組の柱の一つとして掲げています。

西予市では、令和4年度から愛媛県校内サポートルーム設置事業を活用し、宇和中学校に不登校への支援に特化したサポートルームを設置し、現在は専任教員1名とICT支援員1名を配置し、不登校生徒の支援に取り組んでいるところです。令和4年度の利用延べ人数は約2,100人で今年度も20名程度の生徒が登録しております。

サポートルームは、サポートルームでの学習はもちろんのこと、学級や家庭をオンラインでつないで授業に参加するなど、生徒は自らの状況に応じた学びの場や学習方法を選択でき、不登校生徒やその保護者の悩みや思いを受け止めながら、生徒の進路実現に向けた学びを保障する場として機能しているところです。

今後の展望としましては、引き続きこのサポートルームの体制を維持していくとともに、不登校生徒への支援の取組を

<p>酒井委員</p> <p>教育長</p>	<p>市内の学校全体に広げていくことが大切であると考えております。</p> <p>ただ、財政的なこともありますし、人的な問題もあります。今、サポートルームは愛媛県の支援でおこなっており成果も上がってきています。</p> <p>職員の配置についても今後は、県にて配置していただくよう県に要望したところでありまして、県内の市長からも賛同いただきました。</p> <p>このサポートルームは全ての学校までは必要ないかもしれませんが、やはり不登校傾向が強く見受けられる学校については、設置するというのを、国が進める子育て支援の中の事業として取り組んでいただきたい、このことを県や国に要望してまいりたいと思います。</p> <p>また、ご質問のあった不登校児童生徒の保護者への支援については、十分行えていないというのが実状です。</p> <p>昨年度、市内に保護者の会が立ち上げられたという情報を得ています。そうした活動について、さらに情報を収集したり、意見を聴取したりすることによって、不登校児童生徒の保護者に寄り添い、子育てへの不安やストレスを解消していく手立てを考えていきたいと思います。</p> <p>この問題は、学校や家庭だけではなく、地域ぐるみで西予市の子どもたちを育てるという視点で、行政もできる限りの対策を講じていきたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>現在の不登校対策に加え、今後は時代に沿ったより新しい形で、児童生徒誰一人取り残すことのないよう、一人一人の教育的ニーズに応じた不登校対策の充実を図っていただくようお願いいたします。</p> <p>さらに保護者への支援の在り方はもちろん、不登校に対応する教師や学校の多忙さへの対応も喫緊の課題であると考えます。</p> <p>市長が述べられたように学校と保護者、そして地域が一体となって西予市の子どもたちを育てるということを再度お願いしたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>昨年度中学校の不登校生徒が 47 名という市長の説明がありました。47 名のうち 39 名が、一つの中学校に集中をして</p>
------------------------	---

	<p>おります。ぜひとも現在サポートルームを設置している学校につきましては引き続き設置できるようご尽力をいただきたいと思っております。</p>
<p>管家市長</p>	<p>また、教職員の働き方改革は教育現場において大きな課題となっており、不登校対策を行政として取り組むことは教職員の働き方改革にもつながっていくと認識しているところであります。</p>
<p>全構成員</p>	<p>できる限り行政としても支援したいと思っております。</p>
<p>管家市長</p>	<p>その他、この件についてご意見はありませんでしょうか。</p>
	<p>(特になし)</p>
	<p>それでは、協議事項「(3)防災教育について」に移りたいと思います。教育委員の皆様からのご意見をお願いしたいと思います。</p>
<p>木下委員</p>	<p>今年6月、明浜中学校に学校訪問しました。学校長から「学校防災・危機管理マニュアル」をいただき、スクールバスに乗車しての津波避難訓練実施の話を伺いました。津波避難に関しては、三瓶東地区をモデルに住民参加のワークショップや小中高校での防災教室も実施されて、今年、西予市の事前復興計画が策定されました。</p>
	<p>市内各学校、また各地区自主防災組織では避難訓練等が実施されています。</p>
	<p>そこで、「『災害からまなぶ』パッケージ学習事業」についてお聞きしたいと思います。</p>
	<p>令和3年度から実施されており、令和4年度からは四国西予ジオミュージアムとの連携による学習も加わっているようですが、「『災害からまなぶ』パッケージ学習事業」について、事業が開始されてからの小中学校の利用実施状況や主な活動状況をお聞かせいただきたいと思います。よろしく申し上げます。</p>
	<p>「『災害から学ぶ』」パッケージ学習事業」の利用状況等についてお答えします。</p>
<p>管家市長</p>	<p>市では平成30年7月豪雨災害の記録と記憶を風化させることなく、この災害での教訓と経験を生かした防災学習を推進することを目的として、令和3年度から、「『災害から学ぶ』パッケージ学習事業」を行っております。</p>
	<p>開催回数は、令和3年度14回、令和4年度29回、計43回</p>

となっています。

学校ごとの利用回数、利用者数は、宇和中学校 3 回、宇和町小学校 1 回、中川小学校 1 回、田之筋小学校 2 回、皆田小学校 1 回、野村小学校 32 回、城川小学校 2 回、教職員による西予市総合的な学習委員会 1 回で、延べ 1,918 名の利用となっています。

これまでに活用された学習メニューは、必須学習である災害伝承展示室を活用した学習のほか、災害 V R ・ A R の体験、地震から命を守る、避難のときに命をつなぐ大事な物を選ぶ、マイタイムラインを作ろう等の選択学習、地図から読み解く減災講座、大地の下を見つめてみよう、ブラのむら ジオ × 防災、まちを歩いて考えようの四国西予ジオミュージアムと連携した学習メニュー、また、避難所設営の仕方、応急手当、地震車体験、防災倉庫から避難を考える等の特別学習メニューも活用されております。

なお、本事業はモデル事業を含め丸 3 年が経過し、学習ニーズは一巡したとも思われ、令和 4 年度においては、ほぼ災害伝承展示室を活用した学習のみの利用となっております。

また、一部の教員より、15 の学習メニューのうち自校内で行えるものは、教員自ら主体となり実施したいという声も寄せられました。

これらのことを踏まえ愛媛大学に相談したところ、教員自らが授業を行うことができる授業資料・授業計画・板書計画等をデータで作成し、広く公開するオープンデータ化する準備も進めております。

次に、災害伝承展示室の利用状況についてお答えいたします。

令和 2 年 10 月のオープン以来、令和 5 年 3 月末までに 3,726 名の利用がありました。年度別では令和 2 年度 1,119 名、令和 3 年度 1,035 名、令和 4 年度 1,572 名となっています。

うち、市内の利用者が 1,910 名、市外からの利用者が 1,816 名また、中学生以下 886 名、高校生以上 2,840 名となっております。

なお、令和 5 年度は 9 月末までに 471 名の利用がありました。

<p>木下委員</p>	<p>「『災害から学ぶ』パッケージ学習事業」に西予市内だけでなく、市外、県外からの学びの利用が多くあることを嬉しく思います。また、教員も利用され、そこから教員自ら主体となって授業が行える取組が進んでいることに、とても心強く思いました。</p> <p>野村小学校、野村中学校また野村高校の児童生徒たちの復興活動の様子を新聞記事やテレビ放送等によく見聞きします。さらに野村地域住民の皆さんの諸活動も同様です。防災・減災学習は非常に有意義であると思います。</p> <p>今まで以上に、市内各学校に、この事業の紹介を積極的に行っていただきたいと思います。海岸部の明浜、三瓶の子どもたち、市内の子どもたちの多くが現地を訪れて、学びを深めてほしいと思っています。</p> <p>そして、防災教育での子どもたちの学びから、地域の自主防災会への活動に理解を深めて、自主的かつ、積極的に地域の避難訓練等に参加してほしいと思いますし、ともに活動する中で、近所の方や地区の役員、民生児童委員等々との結びつきが強まってほしいと思います。</p> <p>最近、三瓶町の各地区で夜間の避難訓練が実施されています。私の居住地も避難場所までの道路整備が進められて大変ありがたく今後、孫たちと夜間の避難訓練にも参加したいと思っています。</p>
<p>管家市長</p>	<p>西予市は、南海トラフ巨大地震への備えの一環として、令和5年3月に「西予市事前復興計画」を策定しました。</p> <p>この計画に基づき施策を展開しておりますが、重要な施策の1つに「防災教育の推進」を掲げ、各種の取組を行っております。</p> <p>地域で行われる防災訓練等へ学校が参画することについて、防災力向上の観点・学習効果の観点からも非常に良いことであると考えます。</p> <p>こうしたことに取り組むにあたっては、1つに、教育行政的な視点から「地域に開かれた学校づくり」を目指すため、教育委員会・学校現場が一体となって検討・環境整備を進めること。そして2つ目として、防災行政上の視点から、防災部局等が地域と学校の橋渡し役を務めること。以上の2点を両輪として教育委員会・学校現場・行政が一体となって、環</p>

<p>全構成員 管家市長  兵頭委員</p>	<p>境整備を進めることで、地域と学校が連携し、児童生徒や教員もが参画した、避難訓練等が実施できるのではないかと考えます。</p> <p>具体的事例の1つを紹介させていただきますと、愛媛大学と三瓶出身の中高生と行政が協働で取り組んでいる「バーチャルみかめプロジェクト」というものがあります。</p> <p>これは、地域の風景や地形といった情報を、中高生が最新カメラを使って撮影し、それを基に愛媛大学がVRという最新映像技術を使って、非常にリアルな形でその地域全体をVR化し、更にそこに津波シミュレーションを付け加えることによって、津波避難体験を行うことができる学習コンテンツをつくるものです。</p> <p>先日、9月30日に三瓶垣生地区で実施した夜間津波避難訓練において、訓練に先立って行った啓発ブースの中で、この「バーチャルみかめ」を体験できるブースを設置しました。このブースでは、中高生が説明役を担い、多くの垣生地区住民に「バーチャルみかめ」を体験していただき、好評であったと聞いています。</p> <p>今後も、三瓶分校の文化祭などの場で同様のブースを出し、他の生徒、保護者や地域住民の方に体験してもらう予定であると聞いています。</p> <p>この取組みも、デジタル技術を活用した新しい避難体験の形であり、先進的な事例であると考えています。</p> <p>こうした取組みを次年度以降も継続的に行っていきたいと思ひますし、教育行政の視点からどうすれば地域と連携した防災学習等が、より体系的・平準的に実施できるかを議論し、学校現場と一体となった環境整備を進めていきたいと考えていますので、今後ともよろしくお願ひします。</p> <p>その他、この件についてご意見ありませんでしょうか。 (特になし)</p> <p>それでは、協議事項「(4)その他」に移りたいと思ひます。教育委員の皆様からのご意見をお願ひしたいと思ひます。</p> <p>私から要望させていただきたいと思ひます。</p> <p>中学生や高校生が部活動を終え日没後に下校する際の通学路は、場所により暗く、自転車に付いている照明灯ぐらいでは、車道や側溝の区別がわかりにくいところがあります。</p>
------------------------------------	---

<p>管家市長</p>	<p>特に県道宇和野村線などは街灯が少なく、日没後は非常に暗くなります。この地区だけでなく市内、通学路で危険な箇所があると思います。生徒たちの安全や防犯上の観点から街灯増設についての考えをお聞かせいただきたいと思います。</p> <p>県道宇和野村線は愛媛県西予土木事務所が維持管理を行っております。県に照会をかけましたら、道路の構造基準において、例えば新たに横断歩道が設置された個所は照明が設置できるが、歩道は整備されていても、全線にわたり照明灯を整備することは困難でもあるとのことでした。</p> <p>現状でも道路の路肩を照らす街灯数が少なく、大変危険とのことで、事故が発生する前に対策を取ってほしいという中学生・高校生の切実な願いを受け止め西予土木事務所に働きかけを行なうようにいたします。</p> <p>なお、県においても、一度に全線を整備することは不可能と思われるので、どこが危険な箇所か、通学している中学生・高校生の目線で、特に危ないなと感じられている個所を教えていただければ、西予土木事務所への働きかけを行う際に、具体的な要望ができると思いますので、お知らせいただきたいと思います。</p>
<p>兵頭委員</p>	<p>土木事務所への働きかけについて大変感謝いたします。今後、中学生や高校生から具体的な箇所の要望がでましたらご協力をお願いいたします。</p>
<p>管家市長 兵頭委員</p>	<p>その他、ご意見ありませんでしょうか。</p> <p>本来、学校は私たちの周りで最も安全な施設であるべきだと考えます。そして児童生徒が安全で安心して学べる環境を整えるのは、私たち大人の大切な役割であると思っています。</p> <p>しかし、残念なことに不審者等の学校への侵入は後を絶たず、時には重大な被害をもたらすこともあります。</p> <p>今のところ市内での事案は発生していないと聞いておりますが、いつ起きるかは分かりません。被害の未然防止、また最小限に抑えるためにも防犯カメラの設置等による不審者の学校侵入防止対策の強化が必要ではないかと思っております。市長の考えをお聞かせいただいたらと思います。</p>
<p>管家市長</p>	<p>委員の述べられたとおり、児童生徒が安全で安心な学校生活をおくることは、非常に大切なことでもあります。そうした環境を整えていくのは、学校の設置者である行政の責務であ</p>



	<p>ると考えます。</p> <p>不審者が学校に侵入したというニュースを聞くと、他人事ではなく、市内の学校のことが頭に浮かびます。最近では令和5年3月に埼玉県において、不審者がナイフを持って中学校に侵入し取り押さえようとした教員が重傷を負ったという事件がありました。</p> <p>今までも学校において対策を講じているわけですが、それでも防げないことが起きているのが現状です。</p> <p>国もこうした事態を重く受け止め、令和5年度から令和7年度までの間、重点的に不審者の学校侵入防止対策を強化するための予算措置があると聞いております。</p> <p>本市においても、こうした状況をふまえ今後不審者の学校への侵入防止に関する対策を講じて、児童生徒の安全確保に努めてまいりたいと思います。</p>
兵頭委員	<p>不審者の侵入を想定しての避難訓練がそれぞれの学校で実施されていると思います。防犯対策を充実させ、危険回避のためにも、防犯カメラの設置は必要不可欠ではないかと思います。児童生徒が安心して過ごせる学校であるようお願いいたします。</p>
管家市長	<p>国の支援を受けながら、今後充実していきたいと考えております。</p>
教育長	<p>防犯カメラ等については、ぜひとも前向きにご検討いただきたいのですが、ただ、学校規模や地域性も十分考慮した中での判断も必要かと思えます。その点も踏まえた中で、ご検討いただけたらと思えます。</p>
管家市長 全構成員 管家市長 事務局 管家市長	<p>その他、ご意見がありましたらお願いいたします。 (特になし)</p> <p>事務局から何かありませんでしょうか。 (特になし)</p>
	<p>それでは、これで協議の場を閉じたいと思います。協議にあたりまして、様々なご意見を頂戴したこと、感謝申し上げます。</p> <p>皆様から頂いたご意見を今後の教育行政の中に生かしていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、令和5年度第1回西予市総合教育会議</p>

山崎課長	を閉会します。 本日は、貴重な時間をいただき、誠にありがとうございました。 (午後 4 時 43 分閉会)
------	---